



邑智病院だより

皆様に愛され、信頼される病院を目指します。

臨時号
2021/11

発行／邑智郡公立病院組合



自治体立優良病院 総務大臣表彰

～経営の健全性確保と地域貢献が評価され

R3.10.6 島根県知事による表彰状の伝達式



島根県庁にて

左から丸山島根県知事、實田監査委員、石橋管理者、土井総務経営課長、山口院長、日高副院長兼事務部長

歴代の院長が受賞の喜びを共有

左から石原晋名誉院長（前々院長）、
荘田恭仁参与（前院長）、山口清次院長

自治体立優良病院総務大臣表彰の受賞の経緯

●自治体立優良病院総務大臣表彰とは

自治体立の病院で、地域医療の確保に重要な役割を果たしており、かつ、経営の健全性が確保されている病院を表彰するため、毎年1回実施されているものです。今年度の受賞は、全国で7病院であり、島根県内では、昭和62年平田市立病院（現 出雲市立総合医療センター）以来の受賞となりました。

●受賞理由

1. 全国自治体病院開設者協議会会長および全国自治体病院協議会会長から優良病院表彰を受けていること。（石見町立邑南病院が平成4年度に受賞）
2. 過去5年間以上にわたり経常利益が黒字計上していること。（平成23年度から黒字決算継続中）
3. 累積欠損金がない病院から、経営の健全性、経営努力の状況および地域医療に果たしている役割を総合的にデータ評価され、受賞決定。
4. 上記のほか、次の点が評価された。
 - ①救急医療では、郡内唯一の救急告示病院として、救急病床10床を確保し、24時間体制で患者を受け入れていること。
 - ②へき地医療拠点病院の指定を受け、へき地診療所に医師・看護師を継続派遣するなど、地域において重要な役割を果たしている。
 - ③新型コロナ対応では、感染疑い患者と感染患者用の病床を確保し、簡易陰圧装置や人工呼吸器等の増設等を行い、また、県の感染管理支援チームに加わり、高齢者施設等からの相談に応じる体制を構築したほか、地元の医師を対象に防護服の着脱研修を行っていること。

受賞に際して

この度は、名誉ある総務大臣表彰を受賞することができ、大変うれしく思っております。当初は東京において表彰式が執り行われる予定でありましたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、実施ができなくなりました。しかしながら、島根県のご厚意によって令和3年10月6日島根県知事から表彰状、表彰盾の伝達式を行っていただきました。

今回の受賞は、職員の努力はもちろんの事、議会をはじめとした邑智郡3町の皆様方にご理解をいただき、不採算な医療に係る公的資金の繰り入れを認めていただいていることも要因です。このことで、地域に必要な医療を守りつつ10年間の長きにわたり健全経営を続けることが出来ました。

これからも、病院理念であります、「皆様に愛され、信頼される病院を目指します。」を念頭に、職員一同日々精進してまいりたいと考えております。

管理者（邑南町長） 石橋良治



経営改善への取り組みの経緯

◎平成19年度

- ・ 医師事務作業補助者（医師クラーク）¹⁾ 制度の導入。
- ・ 外来待合室に「ご意見箱」を設置し、回答の掲示を開始。
- ・ 3K（暗い、臭い、汚い）環境を撲滅する運動を開始。

◎平成20年度

- ・ 病児保育室「コスモス」開設。
- ・ 第15回日本航空医療学会総会を主催。
（島根県ドクターヘリ導入の切っ掛けとなる）

◎平成21年度

- ・ 病院敷地内に邑南町場外ヘリポートが完成。

◎平成22年度

- ・ 地域機関病院間の医師相互派遣協定²⁾ 締結。
（済生会江津総合病院、江津市、邑南町）

◎平成24年度

- ・ 繰出基準³⁾ の算定計算式を構成3町と合意。

◎平成25年度

- ・ 「京セラ式病院原価管理手法」を導入。〈写真〉
- ・ 公立邑智病院を支援する会発足。（現在256名の会員）〈写真〉
- ・ 日本看護協会が進める看護職のワークライフバランス推進プロジェクト参加。（3年間）
- ・ 医療従事者の学ぶ環境を作るため、研修棟（研修室、事務室）を新築。

◎平成26年度

- ・ 地域包括ケア病床⁴⁾ 導入への取り組みを臨時議会にて説明。（回復期41床を確保）
- ・ 日本看護協会が進める助産師出向システム推進プロジェクト参画。（助産師の確保に繋がる）

◎平成27年度

- ・ 病院原価管理手法を用いた管理会計を「自立プロジェクト」と呼んで継続。
- ・ 女性活躍を推進するため、託児（ファミサポ）事業を病院主導で導入。

◎平成29年度

- ・ 育児サポートルーム「すくすく」を開設。
（職員の授乳室等に利用）
- ・ 給食を全職員が交替で検食。特に夜勤の看護師が入院患者さんからの貴重な意見を吸い上げる効果が高い。（食改善プロジェクト）
- ・ 病院玄関入口交差点に自立看板を設置。駐車場等に夜間照明を増設し、灯りのある環境を整備した。〈写真〉

◎平成30年度

- ・ 職員の自己研鑽の研修参加にも交通費や受講経費を支弁する「キャリアアップ支援事業」開始。

◎令和元年度

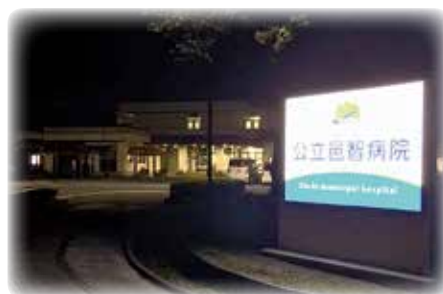
- ・ 本館棟建て替え基本構想策定。



写真：病院原価管理手法導入に際して石原名誉院長（前々院長）から職員に向けた説明会の様子



写真：公立邑智病院を支援する会、職員共同の清掃ボランティア



写真：夜間の病院玄関前入口交差点自立看板

¹⁾ 医師クラーク：医師の隣で医師が行う診断書作成等の事務作業を補助するスタッフのこと。

²⁾ 医師相互派遣協定：慢性的に不足している医療従事者を相互に派遣し助け合う仕組み。

³⁾ 繰出基準：不採算な医療に係る公的資金の繰り入れ額を算定する仕組み。

⁴⁾ 地域包括ケア病床：急性期の治療を終了し、病状が安定した患者に対して、在宅復帰に向けて医療管理、リハビリ、退院支援など効率的かつ密度の高い医療を提供するために平成26年4月から診療報酬制度として導入された病床。

山口院長メッセージ

このたび公立邑智病院は、病院の健全経営と地域貢献が評価され、総務大臣表彰（自治体立優良病院）を受けました。全国の多くの公的病院が赤字に苦しんでいる中、公立邑智病院は10年連続の黒字を達成することができ、大変光栄に存じます。

公立邑智病院では、平成27年（2015年）から経営方針として「自立プロジェクト」に継続的に取り組んでいます。「自立プロジェクト」とは、邑智郡内の急性期医療を守り、過剰な公的補助金に依存しない病院を目ざして、前々院長の石原晋先生の時に「京セラ式病院原価管理手法」を導入されたのが始まりです。

このプロジェクトは現在まで引き継がれ、全職員の参加するマスタープラン発表会、部門ミーティング、月1回の病院運営会議での管理会計分析などを行っています。すなわち職員一人ひとりが病院をわが家のように考え、原価管理表という家計簿を用いてコスト意識を持ち、改善のための知恵を出し合い、経営自立化の努力をしています。

最近、全国の公的病院の統廃合・再編計画が示されたり、また新型コロナウイルス感染症による国の財政逼迫などを考えると、公的病院を維持することは今後さらに厳しくなることが予想されます。こうした環境下でも知恵を出し合って、邑智病院が診療機能を縮小することなく、良質の医療提供を維持することは、地域住民の健康を守り、職員の雇用を守り、ひいては地域経済活性化にも貢献するものと思います。

公立邑智病院は、本館棟の老朽化のため来春（令和4年）から本館棟建て替え工事に入ります。そして令和5年度に現在の約2倍の床面積をもつ新病院が完成します。今回の総務大臣表彰を励みにして、職員のみならず郡内の皆様の協力によって、本事業を成功裏に導きたいと考えております。



院長 山口清次

本館棟建て替え事業の進捗状況



❖現在、令和4年度から建築本体工事が開始できるように実施設計書の作成を進めています。

❖令和3年度末までの事業として「工事用道路及び駐車場造成工事」を実施しています。病院北側周辺を造成し工事車両の進入路と不足する駐車場を確保します。

❖ドクターヘリの運用について

・ヘリポート（邑南町飛行場外離着陸場）について、飛行安全の観点から建て替え工事期間中は使用しないこととし、いわみスタジアム又は中野グラウンド球場を代替え使用する予定です。



新棟イメージ